

ご造営ニュース

三輪神社

宮司…三輪浩孝

鎮座地…平戸市紐差町一六二四

ご祭神…大物主大神

太己貴神

天兒屋根命

電話…〇九五〇―二八―〇〇五八

(宮司宅)



当社は、延文二年（一三五七）に、大和国三輪明神の神主飛驒正が、南北朝の戦乱を避けてご神霊を奉護して平戸木が津の沖に漂着し、沖ノ島が三輪山のように荘厳であったことから当地に奉鎮され、令和五年には六六六年の賀年を迎えました。

文禄年間松浦肥前神鎮信公が朝鮮出兵の折、当社神主三輪三衛門も従軍し戦勝を祈願しました。朝鮮出兵より無事帰還が叶い、当社に、若宮大明神のご神号と、旧紐差村・獅子村・宝亀村三か村の総氏神として、格別の信仰をいただいています。

当御本殿は、昭和二十年代に新築され老朽化が進み、このままでは祭典ができなくなる可能性が出てきたため、ご鎮座六六六年に合わせて今上陛下ご大典記念事業として、本殿・幣殿の改築工事を計画しました。

近年の参拝者を考慮し、現存の拝殿を椅子式に変更し、神楽を幣殿で舞えるように広げ、参拝がしやすいように工夫しました。また、将来氏子減少により、奉斎が困難になる神社が出るのが推測されるので、本殿に合祀することを考

慮して、御扉を二つ増加し先を見据えた計画としました。

令和五年十月二十日の大祭に合わせて工事の完成・奉祝大祭を計画していましたが、コロナ禍・ウツドショックなどの影響により工事は遅延。十一月一日に上棟祭を行い、令和六年一月十三日本殿遷座祭、二月二十五日に奉祝大祭・平戸大神楽奉納・祝賀会を行いました。

また、境内整備も進み、車で拝殿前まで進めるようになりました。病氣平癒の神社でもあるので、これからは、身体が不自由な方でも参拝しやすくなりました。

令和六年の大祭は、天候に恵まれ多くの参拝者を迎えて、新しい本殿・幣殿での祭典となりました。参拝者の方からも、拝殿を椅子にしたことで長時間の参拝が可能になり大変喜ばれました。

改築部分は、本殿・幣殿は約三間×四間の十二坪になり、檜つくりとなっています。

総事業費…一千五百万円

